

2023-10-15【今日の説教から】

「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」

クリスマスのあたたかさが待ち望まれるこの頃ですが、地の上に平和があるようにとの天使たちの賛美は切実なるものでした。昔も今も、戦いや争いが絶えません。

心の思いが口をついて出てくる訳ですから、私たちはまずその私たちの心根を御さなければなりません。ヤコブ書は私たちの心の中を凝視するようにと迫ります。

「知恵がある」とはどんな事でしょうか。それは知識が豊富で賢明な判断が出来、頭の回転が速いこと、経験のあること、そういう事でしょうか。

しかし聖書は知恵にも二種類あると語ります。それが上からの天から来る知恵と、地に属する知恵です。地に属する知恵は、苦々しい妬みや党派心があり、尊大で人を見下し自己中心でライバル心で満ちています。しかし天来の知恵は純粹で平和と調和を願い、謙遜で思いやりがあり、我慢強く寛大で、道理を愛して誤りがあれば自分の非を認めます。

どういう人生哲学に生きるのか、様々な思いが私たちの心を去来しますが、私たちは神の義(神様との正しい関係が成り立つことによって交流が生まれる状態)と平和、ハーモニーを求めて、上からの知恵をただ求めて、地に属する知恵からひたすら脱却して進みたいと願うのです。

皆様おはようございます。いよいよ肌寒くなってまいりました。急に寒くなってきましたから、私たちの身体は冬の寒さに順応するための備えに日々大忙しのことと思います。そんな中ですから、皆様ご無理をなさらず、お身体をいたわっていただきたいと思います。

ヤコブ3章、先週は、「わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである。もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である」とのことで、小さな小さな舌という器官を制する者は体全体を制する、しかし、「舌を制する人は、ひとりもない。それは、制しにくい悪であって、死の毒に満ちている」とありました。

「舌は火である。不義の世界である。舌は、わたしたちの器官の一つとしてそなえられたものであるが、全身を汚し、生存の車輪を燃やし、自らは地獄の火で焼かれる。」とまで語られていましたが、舌を制するという事は、私たちの心根を神様に変えて頂くよりほかない、従ってそれは人にはできないが、神様には出来るということをしひしと心に思いました。

今日はそのお話の続きです。

13 あなたがたのうちで、知恵があり物わかりのよい人は、だれであるか。その人は、知恵にかなう柔和な行いをしていることを、よい生活によって示すがよい。

「知恵」とは何でしょうか。

知識が豊富で聞かれたら何でも即座に答えることの出来る能力、一を聞いたら十を知る賢さ、機転が利く、頭の回転の速さ。勤の良さ。経験の豊かさ。これらはみな良きものであり、学校で学べるものもあれば自分の努力によるものや、あるいは生まれ持った性質でもあるのかもしれませんが、いずれにしても、これらの良きものは、すべての人が得たいと思っているものなのではないでしょうか。

私は人から認められたいと思うあまりその場限りの嘘をついて面白おかしい話をして人からの歓心を買おうと躍起になっていた時期が小学生の頃だったでしょうか、中学生の頃でしたでしょうか、そういう少年時代を過ごしておりましたが、そうやって人の歓心を得ることが出来る自分は実に巧みで賢い人間だというようなへんてこな自負心がありますが、今から思えばただの出まかせを言う嘘つきであって、その底の浅さはすぐにばれるところとなったであろうと思いかえしております。

13 あなたがたのうちで、知恵があり物わかりのよい人は、だれであるか。その人は、知恵にかなう柔和な行いをしていることを、よい生活によって示すがよい。

知恵があるのならば、その知恵を、その知恵にふさわしく、優しさや謙遜、柔和な行いによって、良き生き方をもってその知恵深さを示しなさいと聖書は語ります。聖書は明確に、知恵は優しさと謙遜と柔和さによって、そしてその人の良き生き方によって示されると語ります。ここにも実践あつての知恵があります。それも対人関係において優しさと謙遜とによってあらわされる良き性質を持って現わされると語られています。

知恵はあるのだけれど賢いとか、人を寄せ付けない孤高さがあるとか、高ぶっているとか、自己中心だとか、そういうことはないのだということがこの節には書かれています。

14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや党派心をいだいているのなら、誇り高ぶってはならない。また、真理にそむいて偽ってはならない。

知恵がある、知恵に富んでいると自信を持ちながら、知恵のある人との評判を得ながら、しかし人は本当にその知恵を自分のものとしているのか、心の奥底を探らなければならないと、ヤコブ書は再び私たちの「心の中」、内心、心の奥を凝視すべきことを語ります。

そこには妬みがあります。それは苦々しい熱情です。常に自分を他者と比較して、自分ないものを人が持っているとうらやみ、嫉み(そねみ)、妬む、その中には人に対する妬ましいばかりの憎しみがあり、激しいライバル心があります。人を追い越して上に立ちたいとの心があり、つまりは自己中心的なのです。人が何かを持っているとしたら、それはその人が苦

労をして得たのであり、持ち物であれ、地位であれ、自分が激しく妬みをもって見るべきものではないのですが、自分が一番でない気が済まないという、そういう自己中心性を人間は持っているのではないのでしょうか。そういう狭い狭い、自分の事ばかりしか考えられない偏狭さを持っていながら、どうして知恵に深いということが出来るのでしょうか。どうしてそれなのに勝ち誇ったり、自慢したり、人を蔑んだりして、真理に反抗して嘘をついたり、偽ったりして生きることが出来るのでしょうか。

15 そのような知恵は、上から下ってきたものではなくて、地につくもの、肉に属するもの、悪魔的なものである。

知恵はすべての人々が求める良きものであると思います。しかし聖書は、その知恵には2種類あると今日の個所で語っています。先ほどの自己中心的な、人を蹴落としてでも、打ち負かしてでも人の上に立ちたい、人をねたんで憎しむ心は上から、天からの知恵ではなくて、地に着くもの、肉に属するもの、悪魔的なものであると、聖書ははっきりと語ります。

悪霊は、人を真理から遠ざけようとします。悪霊は、人を真理から遠ざけて滅びに向かうようにと仕向けます。私たちはこのような悪霊との関わりの中に引き入れられるべきではありません。しかし生まれながらの肉の性質は、私たちの心の性質は、そのようなものであったということが私たちには分かります。私たちは知恵でも無いものを知恵と礼賛して、滅びゆく世の中の知恵の中をまっすぐに進んでいました。学業を修め、人を追い越して、人よりも賢くなり、地位を極め、人の上に立ち、豊かな暮らしをし、成功者となるということを私たちは教えられてきたのではないのでしょうか。そういう考え方に染まってしまうと、地位を成した者、力を得たものは知者と呼ばれ、得てして自分が上り詰めたということに酔いしれて、さらに上を目指すために力あるものにおもねって、力無き人を見下すのではないのでしょうか。知恵の名のもとに、そういう事が行われるのではないのでしょうか。

人を人としなない考え方は悪魔的なのです。ライバル心に燃えて、人を倒すべき対象としか見ずに、自己中心に、自分だけが可愛い、自分にすり寄って来る人だけが可愛いと思い、ひたすら尊大に生きるのは、悪魔的なのです。謙遜に、優しく、どんな人をも差別せず、受けるよりも与え、仕えることを目指し、自分が仮に得をしなくても、弱き者、力無きものと共に生きる、見返りを求めずに生きるのが天的であり、神的であり、それが本当に知恵による生き方です。

「悪魔的」な生き方については次の個所にも記してあります。

1 コリント 10:14 それだから、愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。

10:15 賢明なあなたがたに訴える。わたしの言うことを、自ら判断してみるがよい。

10:16 わたしたちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血にあずかることではないか。わたしたちがさくパン、それはキリストのからだにあずかることではないか。

10:17 パンが一つであるから、わたしたちは多くいても、一つのからだなのである。みんなの者が一つのパンを共にいただくからである。

10:18 肉によるイスラエルを見るがよい。供え物を食べる人たちは、祭壇にあずかるのではないか。

10:19 すると、なんと言ったらよいか。偶像にささげる供え物は、何か意味があるのか。また、偶像は何かほんとうにあるものか。

10:20 そうではない。人々が供える物は、悪霊ども、すなわち、神ならぬ者に供えるのである。わたしは、あなたがたが悪霊の仲間になることを望まない。

10:21 主の杯と悪霊どもの杯とを、同時に飲むことはできない。主の食卓と悪霊どもの食卓とに、同時にあずかることはできない。

10:22 それとも、わたしたちは主のねたみを起そうとするのか。わたしたちは、主よりも強いのだろうか。

1 テモテ 4:1 しかし、御霊は明らかに告げて言う。後の時になると、ある人々は、惑わす霊と悪霊の教とに気をとられて、信仰から離れ去るであろう。

4:2 それは、良心に焼き印をおされている偽り者の偽善のしわざである。

4:3 これらの偽り者どもは、結婚を禁じたり、食物を断つことを命じたりする。しかし食物は、信仰があり真理を認める者が、感謝して受けるようにと、神の造られたものである。

4:4 神の造られたものは、みな良いものであって、感謝して受けるなら、何ひとつ捨てるべきものはない。

4:5 それらは、神の言と祈とによって、きよめられるからである。

4:6 これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたは、信仰の言葉とあなたの従ってきた良い教の言葉とに養われて、キリスト・イエスのよい奉仕者になるであろう。

悪魔的な生き方が何であるか、はっきりと記されている訳ではありませんが、このように、神様に反抗して、教えられもしないことを守って自分の誇りにするというのが、自分の栄光のために様々の事を捻じ曲げるのが悪魔的であるという言及であると思います。食物を断つのを命じると言っても、これはマタイ6章にこうある通りです。

マタイ 6:16 また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

6:17 あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

6:18 それは断食をしていることが人に知れないで、隠れた所においでになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。

宗教の指導者たちの心の内に見られるこの稚拙さのうちに、人間の心の中に、どれだけプライドと、嫉妬心と、名声が渦巻いていて、自分が一番大切に、私利私欲に満ち、物事を偏り見ているのかが分かります。

14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや党派心をいだいているのなら、誇り高ぶってはならない。また、真理にそむいて偽ってはならない。

15 そのような知恵は、上から下ってきたものではなくて、地につくもの、肉に属するもの、悪魔的なものである。

16 ねたみと党派心のあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある。

こういうねたみの心、ねたみに燃えて人を憎んで自分を愛する心、党派心、ライバル心のある所には、混乱があります。争乱があります。地上に属し、肉に属し、霊的でなく、悪魔的で、邪悪な、間違った、悪い、ひどく不快な、いやな、下劣な恥ずべき卑しい貧弱な出来事が連なるのです。

17 しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。

しかし上からの知恵は、第一に純粹です。それは清く、素朴で、飾り気がなく、悪意がなく、潔白で、悪気がなく、無害で、騙されやすいまでにお人好しで無邪気で純真です。そして、平和を愛し、調和と和合を愛し、優しく、相手思いで思いやりがあり、我慢強く寛大です。道理を愛して自分の非を認めることが出来、憐れみと同情の心に満ちあふれ、言葉だけではなくて有益な実りを実らせ、あらゆる偏見を持たず、えこひいきをせず、心から誠実で正直です。この聖書の描写から、裏表のない、見せかけ倒しでない、信頼できる人格を感じます。

18 義の実は、平和を造り出す人たちによって、平和のうちにまかれるものである。

このような誠実さに満ちた神の、天からの知恵をどうしたら私たちのものにすることが出来るのでしょうか。

その鍵は、この「義」という言葉の内にあります。義とは、神様との正しい関係の事を言います。何を神様は私たちに望み、願っておられるのか、その上で何が正しいのかが知らされるのです。神様を抜きに何が正しくて、何が間違っているのかを論じることなどできません。

私たちの正しさとは、唯々神様との正しい、良好な関係を頂いて私たちが正しいことを願い、それを行うことが出来るようになったということなのです。それは主が十字架に死んで私たちのための身代わりのいけにえとなられ、私たちのための道、真理、命となって下さったお陰なのです。

ここに平和が、調和が、平安があります。私たちはかつて自分の心の中の苦々しさのうちに、罪のうちに、正しいことをすることが出来ずにいました。しかし私たちは上からの光、天からの光を頂いたのです。そして私たちは平和を作り出すものとして、平和の種を、平和のうちに蒔く者となりました。

心を入れ替えて頂き、心の悪しき思いを断ち滅ぼしていただき、神様の義の中に、新たな使命が与えられているということ、これこそが私たちの感謝であり、誇りです。この恵みの中、主とのお交わりとお導きの中、そのご品性を頂く者として、感謝のうちに今週も進ませていただきたいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。いつも私たちを神様との良きつながりの内に恵み、育て、守り、導いていて下さいまして、本当にありがとうございます。上からの良き知恵に満たして私たちの心を守り、導き、古きものを新しくし、私たちを試練から、危うきから助け出してください。自らの心を制し、上からの知恵を求めて進む私たちに、良きものを満たしてください。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン